

# 図書館だより

## 太宰治・没後40年

(1909.6.19~1948.6.13)

太宰治が山崎富栄と玉川上水に投身したのは6月13日、その遺体が発見されたのは6月19日。くしくも太宰39歳の誕生日であったという。

太宰治の死後、山崎富栄は太宰の死因を「自殺」だと認めた。

しかし、太宰の死因は必ずしも自殺ではない。太宰の死因は、

藤女子大学図書館編集部編著『太宰治研究』(1998)によれば、

- |                |   |
|----------------|---|
| 私の図書館・むかし 小笠原克 | 2 |
| 藤女子大学図書館所蔵     |   |
| 太宰治関係文献リスト     | 3 |



- |        |        |       |
|--------|--------|-------|
| 母屋敷漫遊記 | 林透     | 久保田勝也 |
| まめち野曾記 | 小笠原克   | 2     |
| 藤に咲く花  | ニセアカシア | 8     |
| お知らせ   | 3      | 8     |

## 私の図書館・むかし

小笠原 克 (図書館長 国文学・教授)



十五年越し続けている読書会がある。十年あまりを某喫茶店で、その後は北大の某研究室にたむろして、細く長く書きもせずに持ちこたえてきた。出入りした人數は五十人を越えたろうか。主として在札の大学生たち、一時は“六大学リーグ戦”並のレポーターが揃ったこともあった。

その仲間の青年が、今春、北大附属図書館に就職した。長野県出身の、まさに眉目秀麗な若者である。北大理学部で地球物理学を専攻し、大学院修士を了えての門出だったが、研究分野に即した仕事ではなく、コンピューター操作の技術を買われてのことであるようだ。図書館への電算機導入が、本学にとっても焦眉の急であることと思い合わせたことだった。

さてその北大図書館、なかんずく今は姿を消した“新聞書庫”が、いわば“私の大学”なのだったことも、一挙に思い出されたのである。

三十年前、大学院生から助手時代にかけて、また本学に赴任しての数年間を、私は廃屋に近いその“書庫”で過ごした期間があった。農学部に入り、暗い廊下をまっすぐ進んで突き当ると右に出る。ぼつんと離れてその建物があり、“納豆博士”半沢洵先生の研究室だったと知れる部屋も含め、全体が木造書架で改造された新聞書庫——ありていに言って物置なのだった。一ヶ月分ずつ、半ば近くは仮表紙もつけずに紐で綴じただけのものもろの新聞が、投げ重ねたように積まれていた。北海タイムス・小樽新聞・札幌毎日新聞・樺太日日新聞など、もちろん朝日・読売・毎日・万朝報や、さらに満洲・朝鮮の邦字新聞もが、ひしめいていた。それらを目ざす期間や問題に關し片っ端からめぐり続け探し廻るのである。

真夏の暖房完備、真冬の冷房完備——冬はソリを曳きスコップで路をつけて中に入る、めんどくさいから昼食抜き、夕方にはソリ一杯に新聞を積んで——抱きかかえて研究室に帰る。その繰り返し。コレと見付けた資料は、もちろん誤字誤植も含め文字通り忠実に書き写す。コピー機などハツメイもされておらぬ時代のことだ。おかげで旧字体をまさにカラダで覚える余地もあった。それゆえまた、書写資料は今もなおアタマに残っている。これを用いて私は幾つかの論文を書いたのである。

一つには、北大に文芸雑誌のバックナンバーが皆無に近かった事情があった。それを見るにはウエノ(旧国会図書館)に行かねばならぬ。そのためには、先ダツモノがなければ——それがない以上、手に入るもので探索するほかなかったし、当時は新聞資料を駆使した論文が少なかったこともあって、ここはまさに私の大学、なのだった。

こんなバカなことをする研究者は、今はほとんど居なかろう。稀少価値の雑誌は複刻版があり、新聞は、例えば本学図書館を通じてコピー入手できる。サービス豊かな情報社会のジョーシキだ。

しかし私は今も、見残した満洲・朝鮮の新聞をわが手でめくってやりたい思いがある。

新館長小笠原克先生は、伊藤敬前館長の後任として1988年4月1日着任されました。



- 現代日本文学館36 太宰治 文芸春秋 1969  
918.6/G34/36
- 現代日本文学大系77 太宰治・坂口安吾集 築摩書房 1973 918.6/G34c/77
- 現代日本文学全集49 石川淳・坂口安吾・太宰治集 築摩書房 1954 918.6/G34c/49
- 現代日本文学全集(定本限定版)78 石川淳・坂口安吾・太宰治集 築摩書房 1967 918.6/G34c-1/78
- 現代日本文学全集(増補決定版)78 石川淳・坂口安吾・太宰治集 築摩書房 1973 918.6/G34c-2/78
- 現代日本戯曲選集12 太宰治・福田恒存・三島由紀夫・阪沢匡・田村秋子・柳原政常・堀田清美・秋元松代・木下順二 白水社 1956 912.6/G34h/12
- 現代日本の文学31 太宰治集 学習研究社 1976 918.6/G34g/31
- 現代日本小説大系53 昭和十年代8 堀辰雄・太宰治・岡本かの子 河出書房 1951 913.68/G34/53
- 現代の文学26 太宰治集 河出書房新社 1966 918.6/G34k/26
- 近代日本キリスト教文学全集9 芹沢光治良・太宰治・小山清・坂口安吾・北条民雄 教文館 1975 918.6/K42k/9
- 名著複刻全集・近代文学館 晩年 太宰治著 近代文学館 1969 砂子屋書房1936年刊の原装複刻 918.6/Mc22/D49
- 日本文学全集54 太宰治集 新潮社 1959 918.6/N71s/54
- 日本現代文学全集88 太宰治集 講談社 1969 918.6/N71k/88
- 日本現代文学全集(豪華版)36 太宰治集 講談社 1969 918.6/N71k-1/36
- 日本国民文学全集30 昭和名作集4 河出書房 1956 918.6/N71k/30
- 日本教養全集6 もの思う草 太宰治、堕落論 坂口安吾、片目の哲学 なだいなだ、家出のすすめ 寺山修司 角川書店 1975 081/N71/6
- 日本の文学(アイボリーバックス)65 太宰治

- 中央公論社 1972 918.6/N71c/65
- 日本小説代表作全集14 昭和21年前半期 小山書店 1947 913.68/N71/14
- 日本小説代表作全集16 昭和16年前半期 小山書店 1948 913.68/N71/16
- 日本小説代表作全集18 昭和23年前半期 小山書店 1949 913.68/N71/23
- 日本短篇文学全集36 井伏鱒二・太宰治・木山捷平 築摩書房 1968 918.6/N71c/36
- 新潮現代文学20 太宰治 新潮社 1979 918.6/Sh61s/20
- 新潮日本文学35 太宰治集 新潮社 1969 918.6/Sh61/35
- 昭和文学全集36 井伏鱒二・太宰治集 角川書店 1954 918.6/Sh96k/36
- 全集・現代文学の発見14 青春の屈折 上 學芸書林 1968 918.6/Z3/14
- 4 書誌・辞典
- 太宰治 山内祥史編 日外アソシエーツ 1983 人物書誌大系7 913.6/D49y
- 太宰治文芸辞典 実方清編著 清水弘文堂 1979 913.6/D49s
- 太宰治研究文献ノート 別所直樹編 図書新聞社 1964 913.6/D49b
- 5 作家論・作品論 単行本
- 文芸読本太宰治 河出書房新社 1980 913.6/D49b
- 太宰治:その心の歴史と聖書 赤司道雄著 八木書店 1985 913.6/D49a
- 太宰治 無頼文学研究会編 教育出版センター 1 盖らえる狂言師 1979 913.6/D49b/1 2 仮面の辻音楽師 1978 913.6/D49b/2 3 怒れる道化師 1979 913.6/D49b/3
- 太宰治 梶木剛(等)著 有精堂出版 1983 一冊の講座:日本の近代文学5 913.6/D49d
- 太宰治 長尾良著 宮川書房 1967 913.6/D4

- 9n 宇野 装叢書3 913.6/D49s
- 太宰治：主治医の記録 中野嘉一著 宝文館出版 1980 宝文館叢書 913.6/D49n
- 太宰治：芸術と病理 中野嘉一編 宝文館出版 1982 913.6/D49n
- 太宰治：人と文学 上・下 野原一夫著 リブロポート 1981 913.6/D49n/1~2
- 太宰治 相馬正一編 新潮社 1983 新潮日本文学アルバム19 913.6/D49s
- 太宰治 相馬正一著 津軽書房 1979 913.6/D49s
- 太宰治文学：海外の評価 武田勝彦編 創林社 1985 913.6/D49t
- 太宰治文学アルバム 長篠康一郎著 広論社 1981 913.6/D49n
- 太宰治文学アルバム 女性篇 長篠康一郎著 広論社 1982 913.6/D49n-1
- 太宰治文学批判集 青森文学学会、弘前文学会編 審美社 1968 913.6/D49a
- 太宰治 文学と死 山内祥史著 洋々社 1985 913.6/D49y
- 太宰治への視点 大森郁之助著 桜樹社 1980 913.6/D49o
- 太宰治研究 小山清編 筑摩書房 1956 913.6/D49k \*宇野
- 太宰治 心の王者 渡部芳紀著 洋々社 1984 913.6/D49w
- 太宰治におけるデカダンスの倫理 佐古純一郎著 現代文芸社 1958 913.6/D49s \*宇野
- 太宰治の場所 小浜逸郎著 弓立社 1981 913.6/D49k
- 太宰治の言葉 別所直樹著 芳賀書店 1963 913.6/D49b 宇野
- 太宰治の言葉 別所直樹著 新文学 1965 913.6/D49b
- 太宰治の魅力 竹内良夫(等)共著 権一雄編 大光社 1966 913.6/D49d 宇野
- 太宰治の精神分析 北垣隆一著 北沢図書出版 1974 913.6/D49k
- 太宰治の青春像：人と文学 久保香著 六興出版社 1983 ロッコウブックス 913.6/D49k
- 太宰治の世界 関井光男編 冬樹社 1977 異
- 太宰治の肖像 辻義一編 榆書房 1953 913.6/D49t 宇野
- 太宰治の手紙 小山清編 河出書房 1954 河出新書 913.6/D49k 宇野
- 太宰治をどう読むか 小野正文著 弘文堂 1962 913.6/D49o 宇野
- 太宰治論 福永収佑著 北方新社 1985 913.6/D49f
- 太宰治論 奥野健男著 近代生活社 1956 913.6/D49o 宇野
- 太宰治論(決定版) 奥野健男著 春秋社 1966 913.6/D49o
- 太宰治論 奥野健男著 角川書店 1960 角川文庫 913.6/D49o
- 太宰治論：作品からのアプローチ 鳥居邦朗著 雁書館 1982 雁叢書 913.6/D49t
- 太宰治青春賦 小野隆祥著 キリン書房 1987 913.6/D49o
- 太宰治七里ヶ浜心中 長篠康一郎著 広論社 1971 913.6/D49n
- 太宰治失意の遺書 別所直樹著 世紀社出版 1974 913.6/D49b
- 太宰治 その風土 小野正文著 洋々社 1986 913.6/D49o
- 太宰治その人と 長尾良著 林書店 1965 913.6/D49n 宇野
- 太宰治と井伏鱒二 相馬正一著 津軽書房 1979 913.6/D49s
- 太宰治とコスモス 尾沢多江著 近代文芸社 1982 913.6/D49o
- 太宰治と聖書 佐古純一郎編 教文館 1983 913.6/D49s
- 太宰治とその時代：含義の人 松本健一著 第三文明社 1982 913.6/D49m
- 太宰治とその生涯：芸術家とはなにか 三枝康高著 現代社 1958 913.6/D49s \*宇野
- 太宰治と罪の問題 菊田義孝著 修道社 1961 913.6/D49k 宇野
- 太宰治と罪の問題 菊田義孝著 審美社 1964 913.6/D49k
- 太宰治と私：激浪の青春 石上玄一郎著 集英社

社 1986 913.6/D49f 149p 芥川・太宰と新潮社 1948 913.6/A39f

太宰と芥川 福田恒存著 新潮社 1948 913.6/D49m

太宰と地平 森永国男著 鉛筆社 1985 913.6/D49m

不信の病理 太宰治と分裂病 富樫行慶著 永田文昌堂 1981 913.6/D49t

二人の友 小山清著 喜美社 1965 913.6/D49k \*宇野

含羞の人 私の太宰治 矢代静一著 河出書房新社 1986 913.6/D49y

悲劇の解説 古本隆明著 筑摩書房 1984 910.26/Y91

悲劇の解説 古本隆明著 筑摩書房 1985 ちくま文庫 910.26/Y91

批評と研究太宰治 文学批評の会編 芳賀書店 1975 913.6/D49b

評伝太宰治 第1~3部 相馬正一著 筑摩書房 1982~85 913.6/D49s/1~3

評駁太宰治 塙越和夫著 華真文社 1982 913.6/D49t

回想の太宰治 津島美知子著 人文書院 1978 913.6/D49t

回想の太宰治 津島美知子著 講談社 1983 講談社文庫 913.6/D49t

コローキアム太宰治論 相馬正一編 津軽書房 1980 913.6/D49s

苦惱の旗手太宰治 杉森久英著 角川書店 1972 角川文庫 913.6/D49s

人間太宰治 山岸外史著 筑摩書房 1962 913.6/D49y 宇野

人間太宰治の研究 1~3 長篠康一郎著 虎見書房 1968~70 913.6/D49n/1~3

ノーベル賞を超えた三人の日本人 中原中也、太宰治そして--- 藤原明夫著 中原中也・太宰治研究所 1982 藤原明夫著作集5 914.6/F68

講外・芥川・太宰源論 文学の原点 藤井和義著 横楓社 1978 910.28/F57

作品論太宰治 東郷克美、渡部芳紀編 双文社出版 1974 913.6/D49t

写真集太宰治の生涯 每日新聞社編・刊 1971

913.6/D49m

新説・太宰治 越川正三著 横楓社 1971 913.6/D49K

神話世界の太宰治 長部日出雄著 平凡社 1982 913.6/D49o

少年太宰治 今官一著 すばる書房 1976 913.6/D49K

天井と鉤と影 太宰治論 清水氾著 小峰書店 1973 913.6/D49s

私の太宰治 菊田義孝著 大光社 1967 913.6/D49K 宇野

## 6 作家論・作品論 築摩書房

現代日本文学アルバム：人と文学シリーズ 太宰治 安岡章太郎（等著） 学習研究社 1980 普及版 910.26/G34/14

現代作家論全集10 太宰治 奥野健男著 五月書房 1958 910.28/G34/10

鑑賞日本現代文学21 太宰治 館庭孝男編 角川書店 1981 910.26/ka59/21 \*宇野

近代文学鑑賞講座19 太宰治 龜井勝一郎編 角川書店 1959 910.86/Ki42/19 \*宇野

近代文学資料4 太宰治 山内祥史著 横楓社 1970 910.26/Ki42/4

近代作家研究アルバム 太宰治 小山清編著 筑摩書房 1964 910.28/Ki42/D

日本文学アルバム15 太宰治 小山清構成解説 筑摩書房 1955 910.28/N71/15

日本文学研究資料叢書 太宰治 日本文学研究資料刊行会編 有精堂出版 1981 910.8/W71/D

日本文学研究資料叢書 太宰治2 日本文学研究資料刊行会編 有精堂出版 1985 910.8/W71/D:2

奥野健男作家論集1 太宰治論 泰流社 1977

奥野健男著作シリーズ 918.6/056t/2:1

歴史と文学の旅12 太宰治と津軽路 桂英澄著 平凡社 1973 291/R25/12

作家研究叢書 太宰治研究 龜井勝一郎編 新潮社 1956 910.28/Sa42/D

佐古純一郎著作集7 太宰治におけるデカダンスの倫理 春秋社 1960 918.6/Sa43/7  
 肖像・日本文学史研究 太宰治 制度・自由・悲劇 浦田義和著 法政大学出版局 1986  
 910.8/S051/11

手・太宰治 解釈 1970.6 太宰治新解釈 I  
 太陽 9巻9号 1971.9 太宰治と津軽  
 国文学解釈と鑑賞 37巻12号 1972.10 芥川龍之介と太宰治  
 国文学(学燈社) 19巻2号 1974.2 太宰治－自虐者の虚構  
 国文学解釈と鑑賞 39巻15号 1974.12 太宰治の世界

### 7 その他

愛は死と共に：太宰治との愛の遺稿集 山崎富栄著 長篠康一郎編 改訂版 虎見書房 1969 915.9/Y48  
 小説太宰治 権一雄著 近代生活社 1955 913.6/D49d 宇野  
 手記 太田治子著 新潮社 1968 913.6/D49c

ユリイカ 1975.3・4 太宰治 私とは何か  
 国文学(学燈社) 21巻6号 1976.5 太宰治の問い合わせるもの  
 日本近代文学 24集 1977.10 シンポジウム：作品論の可能性と限界 太宰治『人間失格』を中心として  
 国文学解釈と鑑賞 42巻14号 1977.12 新しい太宰治像

### 8 雜誌 専門誌

太宰治研究 審美社 1~10、臨時増刊2冊 1962.10~1970.6  
 太宰治 洋々社 1985~  
 創刊号 1985.7 特集「人間失格」  
 2号 1986.7 特集「晩年」  
 3号 1987.7 特集「津軽」

国文学(学燈社) 24巻9号 1979.7 太宰治二十世紀のフォークロア  
 別冊国文学(学燈社) 7 1981.9 太宰治必携  
 国文学解釈と鑑賞 46巻10号 1981.10 太宰治の肖像  
 国文学(学燈社) 27巻7号 1982.5 太宰治もう一つの顔を求めて  
 信州白樺 51・52合併号 1982.10 太宰治特集号  
 国文学解釈と鑑賞 48巻9号 1983.6 太宰治  
 国文学解釈と鑑賞 50巻12号 1985.11 太宰治 昭和8年~12年

### 9 雜誌 特集号

文芸 1948.9 文学者と自殺  
 文学界 1953.9 太宰治の人と作品  
 文芸 1953.12 太宰治文学碑建立記念 太宰治  
 特集号  
 文芸 1956.12 臨時増刊 太宰治読本  
 国文学解釈と鑑賞 25巻3号 1960.3 太宰治  
 作家論と作品論  
 国文学(学燈社) 8巻5号 1963.4 太宰治における人間と風土  
 現代のエスプリ 15号 1965.9 太宰治  
 国文学(学燈社) 12巻14号 1967.11 太宰治の文学  
 国文学解釈と鑑賞 34巻5号 1969.5 20世紀旗

国文学(学燈社) 32巻1号 1987.1 太宰治 終焉へのナラトロジー  
 国文学解釈と鑑賞 52巻6号 1987.6 太宰治 昭和13年~20年

### 職員の異動

採用 城下治代 1988.4.3 総務 1988.4.1

~~~~藤に咲く花 9~~~~

ニセアカシア 花穂の花  
(ハリエンジュ *Robinia pseudo-acacia*)

札幌祭りの頃、街並に白く咲くアカシアは、花川校地の小高い丘にもみることができる。「アカシア」と一般によんでいるが、正しくはマメ科のロビニア属ニセアカシア。エンジュに似ていて、若い枝には強いトゲがあるので、ハリエンジュともいわれる。北アメリカ原産。葉は奇数の羽状複葉で、花は蝶形で白く、多数房になってつく。本当のアカシアは全くの別種である。

この道はいつか来た道、

ああ、さうだよ、  
あかしやの花が咲いてる。



アカシアというと、北原白秋のこの歌を忘れる事はできない。札幌の北一条通りの風景を思われる歌である。が、この歌は、北一条通りをうたったものではないらしい。白秋が札幌に立ち寄ったのは、大正14年8月末。アカシアの花はすでに散っており、アカシア並木を歩いた距離もわずかであったという。したがって「この道」は、アカシアの葉越しに浮かぶ白い雲を花房と見て、それに郷里の柳川にあるアカシア並木を重ね合わせ、詩想を結実させた作品ではないかといわれている。

夏の始まりを告げるかのようなアカシアの花、甘い香りをただよわせ、詩情を奏でながら、白く清楚に咲くのももう間近である。

写真は『世界の植物百科』(F.A.ハック著 岩崎書店 1967 470.3/M97)より転載。

参考資料 『北海道の樹木』(鈴島惇一郎著 北海道新聞社 1986 472/Sa58 他)

★お知らせ

◎昭和62年度卒業生からの寄贈

例年のとおり今回も寄贈がありましたので、

ご披露いたします。

国文学科 幸徳秋水全集 明治文献資料刊行会版 大

河内一男、塩田庄兵衛他編 日本国書セン

ター (含・補巻「大逆事件アルバム」)

英文学科

聖書を踏まえた英詩解釈 奥田喜八郎 ニュ

ーカレントインターナショナル

ボウブと一八世紀の抒情詩 酒井幸三 あぼ

ろん社

エリオットへの序章 小川正英 英潮社

など、英米文学研究書約30冊

藤女子大学 図書館 だより

第31号 1988.5.20

発行者 札幌市北区北16条西2丁目 藤女子大学図書館

TEL 011-736-0311㈹ FAX 011-709-8541(大学庶務課)